東書　四年下

木竜うるし

木下 順二 文
くすはら 順子 絵

○ 目標

・ 人形劇の脚本を読んで、五幕の情景や登場人物の行動・心情を想像しながら朗読劇を楽しむことが出来る。

第一次（概観）指導（一時間）

〈区画〉七区画（一幕②二幕①三幕②四幕①五幕①）

一よむ（音読　ト書き一名、各区画役者分担　計一三名）

二とく（読後感の話し合い）

○題目　（木竜うるし　と板書後）

① 木竜は、誰が作ったのか。
　権八。（権―　板書）

② 権八は木竜に何をさせようと考えたのか。
　うるしの番人。　（うるしの補説をする）

③ 権八は、その竜を誰に拝ませようとしたか。
　藤六。

④ 藤六は、それを何だと思ったか。
　大じゃだと思った。

◎ひびき

⑤ 藤六の驚く姿を見て、大笑いした権八が、今度は、何がいたと驚いたのか。
　竜が生きていると思って驚いた。

⑥ 権八が、番人として置いた木竜を、本物と見間違えたという笑い話です。

○手引き

・ 権八と藤六が、それぞれ目にしたものを書き出します。「ふち」は書かなくてよい。

三よむ（指示に沿って黙読）

四かく（視写）

権八		藤六
のこぎり	①	のこぎり
うるし	②	うるし
うるし　竜	③	○
口	④	大じゃ
○	⑤	木でほった竜
目	⑥	木の竜
のこぎり　みな	⑦	のこぎり　みな

五よむ（指黙読　指音読）

六とく（板書をもとにしての話し合い）

○事実・区分

① 四つののこぎりのうち、切れないのはどれか。
　①の権八ののこぎり。

② そののこぎりを置いて、急いで家に帰った権八のしたことは何か。
　木で竜を造ること。

③ 何を見たから木竜を作ろうと考えたのか。
　うるし。

④ ところが、うるしを取ろうと潜ると、竜が生きているように見えた。どこでそう感じたのか。
　口と目。

⑤ それは、水の加減だと見破ったのは誰だ。
　藤六。

⑥ その藤六の話で、うるしは誰のものになったのか。
　村中のみなのもの。

⑦ うるしがみんなのものになって、大笑いできるという話です。そう決まったのは、何番だ。
　⑥番。

⑧ 独り占めしようと考え始めたのは何番か。
　③番。

⑨ ②がうるしの発見、③～⑤が独り占め、⑥から気持ちが変わる。（区分）

◎山

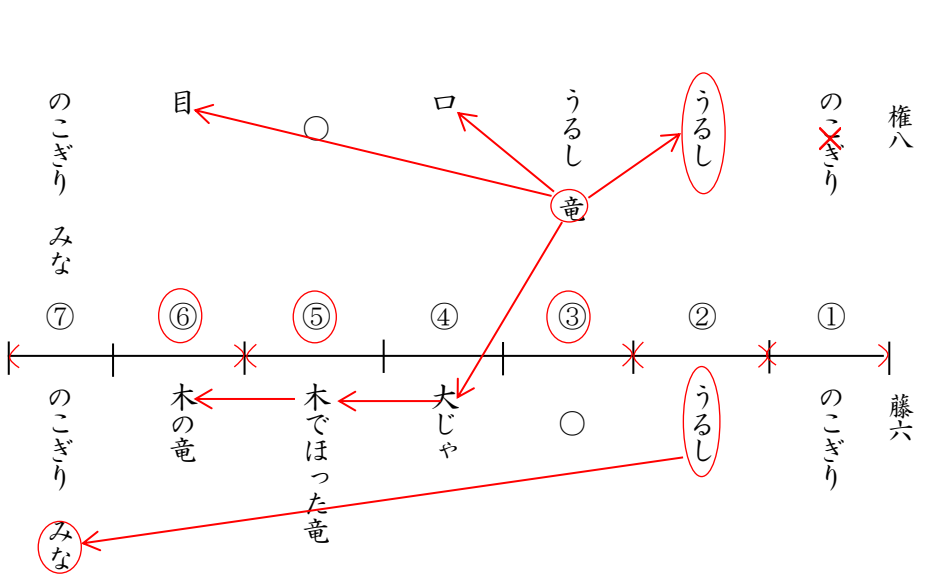
⑩ 権八の気持ちがだんだん変化していく所を詳しく読むと、この話の面白さが分かる。三か所選ぶとすると何番がよいか。
　③と⑤と⑥。

⑪ 家で絵も見ながら読んでごらん。面白いよ。

○余韻　藤六は、ほんとうに気立てがよいなあ。

七よむ（全員で板書を指音読）

〈板書事項〉



第二次指導第一時

一よむ（音読　一三名）

二とく（本時の足場作りの話し合い）

○おさらい

① ふちの底のうるしを見つけたの何番だった。
　②番。

② そのうるしを取りに行って、大じゃと生きた竜に驚いたのは何番か。
　④番。

③ 木竜だと分かって、すぐ安心できたのは誰だ。
　藤六。

④ その藤六のことを見て、権八はどんな決心をしたのか。それは、何番か。
　⑥番　村中のみなに分けること。

◎承接

⑤ その権八が、③で、木の竜をうるしの所に置いて、竜に言ったことは、何だったか。
　藤六が来よったら驚かしてやれ。

⑥ と、言ってから竜を見て「うん。」と頷きながら言ったのは、どんな言葉だ。
　どうみても本物の竜だ。

○手引き

・ その後の独り言を書く。（下書きはなし）

三よむ（黙読）

四かく（視写）

これならだれが見てもびっくりしてにげ出すことうけ合い。そしておらが一人で大金もうけすることうけ合い。けんど、見れば見るほどたくさんのうるしだ。これだけをおらがひとりじめとは、ちょっとおそろしい気もするがーま、これも運が開けたちゅうもんだろう。

五よむ（指黙読　指音読）

六とく

○語義・区分

① これなら　うけ合い　見れば見るほど
　おそろしい気　―ま　運が開ける

・（竜と漆で二区分後、それぞれ二区分）

◎心

② 権八が望んでいることは何か。
　大金儲け。

③ その準備は完了した。どこに出ているかな。
　誰が見てもびっくりしてにげ出す。

④ それで安心して、改めて見回したら二つの気持ちが出て来た。何と何。
　ちっとおそろしい。と、運が開けた。

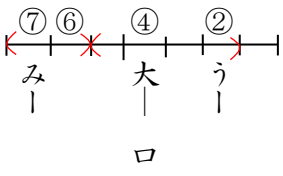
⑤ 権八の今の気分に合う言い方はどれか。
　繰り返しの言葉と「ちゅうもんだろう」

⑥ この場面に、後の笑い話のもとがひそんでいるのだが、どの言葉がそうかは、次時のお楽しみにしよう。家で読んで考えてごらん。

○余韻　権八は、うきうき気分になっているなあ。

七よむ（指音読）

〈板書事項〉



本物の竜

これならだれが見ても
びっくりしてにげ出す
ことうけ合い。」そして
おらが一人で大金もうけ
することうけ合い。
けんど、見れば見るほど
たくさんのうるしだ。」
これだけをおらがひとりじめ
とは、ちょっとおそろしい
気もするがーま、これも運が
開けたちゅうもんだろう。

第二次指導第二時

四かく

お、おい。やい。やあこら、
どうしたらええだ。あいつ
一口に食われてしまうが。
……ああ、おら悪いことを
した。おらがよくを出した
ばっかりに、こらたいへんな
ことになってしもた。
こらきっと神様がおこって、
あの木の竜にたましいを
入れなさったにちがいないわ。
……けど、やっぱりあのうるしは
おしいなあ。

第二次指導第三時

四かく

おらのほうがよっぽど
おったまげただ。ふうん、
やっぱり木竜かあ。
なあるほど、水がゆれると
ゆらゆらっと見えるわ。
ああ安心した。……さっきは
ほんまに生きとると思うたが
……やっぱり悪いことをしとると、
気のせいでいろんなふうに見える
もんだ。

安心したろうが？さあ行こう。